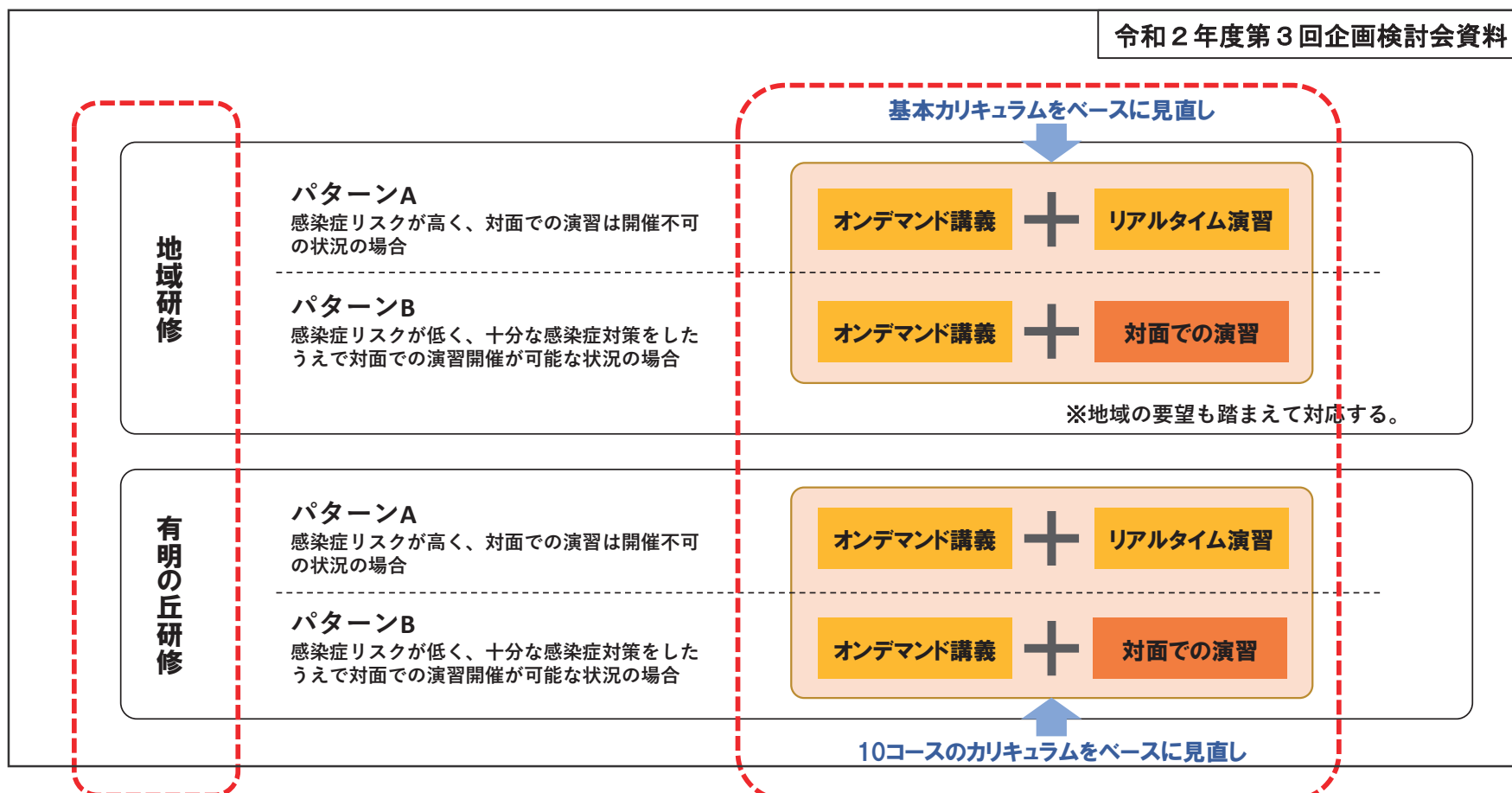


今後の防災スペシャリスト養成研修のあり方 論点整理

オンデマンドやリアルタイムといったオンラインによる講義や演習が研修方法の新たな選択肢となり、多くの人に受講機会を提供できる現状を踏まえ、今後、受講者の拡大を図ること、受講者ニーズに即した研修の内容強化をはかることを基本に、次の課題に対する議論を行う必要があるのではないか



【論点1】各研修で何を教えればよいか
(役職や立場に応じて、何を身につけるのか)

➡ 第4回検討会(今回)検討

【論点2】どのような研修方法を設定すればよいか

➡ 第5回検討会にて検討

【論点1】 各研修で何を教えればよいか(役職や立場に応じ、何を身につけるのか)

〈課題〉 各コースの対象者が明確でない(地域・有明の区分含め)、役職に応じたコース設定の求めがある、コースによっては、マネジメントとオペレーション内容が混在など

- どのような立場や役職の人の受講者拡大を図り、そのコースをどう設定するか(対応力(人)を高める仕組みとして、「すそ野を広げる」、「頂を高くする」、「主峰を据える」、「多様性を確保する」などある※1)

※1:平成26年度「防災スペシャリスト養成」企画検討会報告書「図1-7 対応力(人)を高める仕組み」

- 研修の制約※2と受講者ニーズ(オンデマンド、対面への求め、新たなコース求めなど)を踏まえ、「地域研修」、「有明の丘研修」において、各研修・コース・講座でどのような人を対象とし、また研修内容とするか

※2:研修の制約:講師が地域に出向き実施している「地域研修(年間5地域程度×2日間)」と受講者が有明に集い実施している「有明の丘研修(年間2期×10コース×2日間)」

【論点2】 どのような研修方法が最適か

〈課題〉 時間的な制約の改善(方法の改善)、新たな研修方法を選択肢とした、最適な方法設定の必要など

- 立場や役職に応じて身につけるべき能力を習得するための最適な学習の機会(学習方法や範囲)をどう設定するか
- 各研修方法(eラーニング、オンデマンド(動画配信)、リアルタイム、集合※3)の特徴と受講者の学習の段階性との関係から、どのような学習方法を設定すればよいか

※3:誰もが好きな時に受講を可能とするeラーニングやオンデマンド方式での講義や自主ワーク、自分のいる場所で受講を可能とするリアルタイム方式でのオンラインでの講義やグループ検討、特定の時期・場所に集うといった制約があるものの、参加者間で対面によりグループワークや演習などのできる集合・対面方式による研修

(1)【論点1】各研修で何を教えればよいか(役職や立場に応じ、何を身につけるのか) について意見整理

① 対象者について委員・受講者の意見整理

■ 有明の丘研修

委員意見 第1回～第3回 企画検討会議事概要より意見整理

- 対象者を明確にしたうえでコースを設定してはどうか
 - ・ コースの受講者の属性が危機管理監や新任者等と混在している
 - ・ 講義内容がマネジメントレベルと担当者業務レベルとで混在している
- マネージャーと業務担当者に分けて設計してはどうか
 - ・ 業務担当者は、仕事の標準的な手順(SOP)をオンデマンド講義で学ぶ
 - ・ マネージャーは、対面形式等で最新の話題の講義を中心に学ぶ
- 防災SP養成eラーニングは、「必ずしも危機管理担当ではないけれども臨時に動員されるような一般事務職」が対象ではないか
- 初級者・中級者・幹部職員に分けて設計してはどうか
 - ・ eラーニングで知識を身につけていることを前提とすると、対面研修では、初級者:防災のイメージ作り、中堅級:ワークショップ中心、幹部職員:シミュレーションや実際に自分が指揮する場面をつくる、等職務に分けて設計できるのではないか
- 遠方等の理由で集合研修に参加しづらい方や受講者拡大のためにオンデマンド講義のみのコースを設計してはどうか

受講者意見 令和元年度実施 修了者アンケートより

- 受講者の対象をある程度明確にしたほうがよい(初心者、上層部等)。

■ 地域研修

委員意見 令和元年度 第5回企画検討会議事概要より意見整理

- 市町村の防災担当1～3年目の職員を対象にしてはどうか

受講者意見 令和元年度地域研修 最終日アンケートより意見整理

- ほぼ知識が無い人向けの研修があってもよいのではないか

(2) 学習の範囲について委員・受講者の意見整理

■ 有明の丘研修

委員意見 第1回～第3回 企画検討会議事概要より意見整理

- 既存の10コースの見直しは必要だが、この枠を変更する必要は無いのではないか
- 既存の10コースの単元の中から、新しくコースを立ててはどうか
 - ・ マニュアル的な避難所の運営、罹災証明発行、医療救護、緊急輸送、物資支援 等
- 新しいコースを開発・試行してはどうか
 - ・ トレーナーズトレーニング、新しいコースの開発、マネジメント業務に特化 等
- 自治体職員業務の実務的な内容や現場ニーズを反映してはどうか
 - ・ 実務的な内容:ゴミ処理、ご遺体の取り扱い 等
 - ・ 現場ニーズ:地区防災計画の普及や個別計画での確実な要配慮者の避難支援 等

■ 地域研修

委員意見 令和元年度 第5回企画検討会議事概要より意見整理

- 市町村職員が実務や他部署への助言・支援ができるようになる研修が求められているのではないか
 - ・ 市町村が地域研修に期待していることは、職員が実務をできるようになり、他部署の災害対応業務に助言ができるようになることではないか。
 - ・ 総論や警報避難など防災課中心の業務、他部署の災害対応(特に被災者支援)のマニュアルづくりや訓練支援ができる研修にしてはどうか。

受講者意見 令和元年度地域研修 最終日アンケートより意見整理

- 講義に取り入れてほしい内容がある
 - ・ 物流(物資)、被災市区町村応援職員確保システム、プッシュ支援の情報収集 等
- もっと深く学びたかった内容がある
 - ・ 被災者支援の仕組みや救助法の仕組み、具体例 等

■ 有明の丘研修・地域研修共通

受講者意見 令和元年度実施 修了者アンケートより

- 事例・実例・失敗談・教訓等を聞きたい。
 - ・ 経験者からの事例・失敗談・教訓、災対本部会議の運営の実例、応急対策の実例、よくできた訓練や研修等の事例 等
- 追加してほしい個別テーマがある。
 - ・ 情報マネジメント(収集、活用、発信)、応急危険度判定、住民避難、要介護者問題、通信手段の確保、ボランティア受付 等

【論点2】どの方法でどこまで教えるのかに関する意見整理

■ 有明の丘研修

委員意見 第1回～第3回 企画検討会議事概要より意見整理

- オンデマンド講義は今後さらに充実する必要がある、マネジメント業務中心に、対面での演習を2日ではなく1日としてもよいのではないか。
- 内閣府防災の重要施策を全国に浸透させる場合、本研修のオンデマンド講義でコンテンツを作成して流してはどうか。
- リアルタイム演習では、講義型よりも質疑やワークショップの時間を多くしてはどうか
- 対面研修では、直近の災害についての最新情報の提供を意識してはどうか
- eラーニングはコースの全体像や基本的な知識を学び、対面研修では特定の要素を深く考えていく機会としてはどうか
- コースの一部単元のみなど部分的な受講を認めてはどうか

■ 地域研修

委員意見 第3回 企画検討会議事概要より

- コーディネーターや検討会の委員を講師として派遣してはどうか

受講者意見 令和元年度地域研修 最終日アンケートより意見整理

- 講義内容を詰め込みすぎていて時間が足りなかった
 - ・ 3日間程度にして、もう少しゆっくり話を聞きたい
- 演習の時間を増やしてほしい
- 座学は音声による講義でもよい。質疑応答には講師が1人は出席が必要。

■ 有明の丘研修・地域研修共通

受講者意見 令和元年度実施 修了者アンケートより

- eラーニングを取り入れ、事前学習の充実を図るべき
- 研修の頻度を増やしてほしい。→受講機会を増やしてほしい。
- 日程を長くしてほしい。
- 地方でもっと実施してほしい。地域ブロックの研修など。

